SYLLABUS

２０２２年度　シラバス

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

歯科衛生学科　　２年生（１７期生）

HUMANITEC DENTAL HYGIENIST

∽∽　ＳＹＬＬＡＢＵＳ　目次　∽∽

１．コミュニケーション論・・・・・・・・・・・・・・・１
２．基礎教養学・・・　・・・・・・・・・・・・・・・　・３
３．歯周療法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
４．歯科補綴学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
５．口腔外科・麻酔学・・・・・・・・・・・・・・・・・７
６．小児歯科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
７．高齢者歯科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
８・障害者歯科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
９・歯科矯正学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
10. 歯科予防処置論Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・１２
11. 歯科予防処置論Ⅳ・・・・・・・・・・・・・・・・１４
12. 歯科保健指導論Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・１５
13. 歯科保健指導論Ⅳ・・・・・・・・・・・・・・・・１７
14. 食生活指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
15. 歯科診療補助論Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・２０
16. 歯科診療補助論Ⅲ（臨床検査）・・・・・・・・・　２２
17. 歯科診療補助論Ⅲ（救急蘇生）・・・・・　・・・２３
18. 放射線学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
19. 臨床・臨地実習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・２５
20. 歯科総合演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
21. ライフデザインⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・２７

授業名	コミュニケーション論	学年	1年次前期
担当講師名	田上 佳保里	単位(時間数)	1単位(16時間) この内、以下の内容を含む ・コミュニケーション論(12時間) ・レクリエーション支援(4時間)

■授業概要

歯科衛生士として必要不可欠なコミュニケーション能力、接遇精神・知識を養成する。ホスピタリティマインドに重点を置いたビコミュニケーションのあり方を習得する。相手の立場に立って行動しようとする指向性を持ち、その実践行動を通して相互がより豊かな仕事の成果や自己成長を図れるようにする。自己を理解したうえで他者理解を深める。

■到達目標

①自分自身を理解し、他者に対する自己表現法を知る
②自己表現における言語・非言語のあり方と他者へ与える影響の認識と理解
③就職や実習の際に困らない言語・非言語コミュニケーションの取り方の習得・実践
④心(ホスピタリティマインド)があるからこその形についての理解を深める

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	コミュニケーションとは	テキスト単元1・2　座学・ワーク
2	話の聴き方　話し方	テキスト単元3・4　座学・ワーク 【課題】①自分自身の受講態度を言語・非言語の両面から客観視する ②①で出た課題を克服目標として挙げる(第3回に提出)
3	話し方・質問の仕方	テキスト単元5・6　座学・ワーク
4	不安に寄り添う話し方①	テキスト単元7・8　座学・ワーク 【課題】初回②の達成度と反省(第5回に提出)
5	不安に寄り添う話し方②	納得と合意～インフォームドコンセント～ テキスト単元 9・10　座学・ワーク
6	不安に寄り添う話し方③	テキスト単元 11・12　座学・ワーク 【課題】最終レポート(第6回終了1週間以内に提出) ※随時補足プリント使用予定

【評価方法】
課題3点(　)の部分…合計90点(各25.25.40点)、平常点(基礎点)10点(忘れ物、居眠り、不真面目など減点方式　例:毎回居眠りなら-6)

【使用教科書】
「医療者のためのコミュニケーション入門」精神看護出版

【使用参考書】

授業名	基礎教養学	学年	1 年次前期
担当講師名	田上 佳保里	単位(時間数)	2 単位(12 時間)

■授業概要

歯科衛生士として必要不可欠なコミュニケーション能力、接遇精神・知識を養成する。ホスピタリティマインドに重点を置いたビジネスマナーを習得する。相手の立場に立って行動しようとする指向性を持ち、その実践行動を通して相互がより豊かな仕事の成果や自己成長を図れるようにする。自己を理解したうえで他者理解を深める。

■到達目標

①自分自身を理解し、他者に対する自己表現法を知る
②ビジネスマナーの必要性の認識と理解
③就職や実習の際に困らないビジネスマナーの習得・実践
④心(ホスピタリティマインド)があるからこその形についての理解を深める

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	自己認識・自己表現①	第一印象の磨き方や自己を認識するために性格分析を行い、自分自身を見つめ直す。
2	自己認識・自己表現②	コミュニケーションスキルを養成するグループワークを実施、そのワークの中で他人から見た自分を認識する。(印象交換)
3	自己認識・自己表現③	将来の目標を設定する。目標を達成するために必要なものを考える。ドリームマップ作成の準備
4	自己認識・自己表現④	ドリームマップの作成・プレゼンテーション
5	ビジネスマナー①	ビジネスマナーの必要性、声の出し方・指示の受け方・報告の仕方
6	ビジネスマナー②	言葉遣い(敬語・話し方)・電話応対 敬語・電話応対小テスト
7	ビジネスマナー③	受付と訪問、接客などのビジネスマナー
8	ビジネスマナー④	ビジネス文書の書き方(基本と応用) 最終授業後 1 週間以内に講師指定アドレスへメール送信

【評価方法】
課題3点(　)の部分…合計90点(各30点)、平常点10点(忘れ物、居眠り、不真面目など減点方式)

【使用教科書】
「ビジネスマナー基礎実習」早稲田教育出版

【使用参考書】

授業名	歯周療法	学年	2年次　前期
担当講師名	林　潤一郎　福田　光男	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要

歯周病はう蝕と共に歯科の二大疾患であり，成人のおよそ 80%が何らかの種類の歯周病に罹患しています．現在，歯周病は生活習慣病に認定され，高齢化社会を迎えた現在，歯周治療は今後ますますその必要性が高まっていくこととなります．歯周療法学では，歯周病の原因や進行のメカニズムをよく理解し，その予防法と治療法について学びます．しかし，テクニックだけを学ぶのではなく，予防や治療の目的や理論をよく理解することが大切です．歯科衛生士は，単なる歯科医師の補助ではありません．医科の分野と同様に，歯科においても，歯科医師と歯科衛生士がそれぞれの役割をよく理解し，協力することにより治療の効果が高まり，患者さんを救うことが可能になるのです．歯周治療をよく理解した歯科衛生士は，本当の意味で，患者さんや歯科医師に必要な存在となるでしょう．

■到達目標

歯周病の病因と病態を理解し、一般的な説明ができる。
歯周病の状態に応じて、適切な口腔清掃指導ができる。
歯周病の治療法を理解し、適切な介助ができる。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	**歯周治療学総論** 1、歯肉炎と歯周炎の臨床症状とその治療	歯周病とその治療に関する基礎的事項について
2 3	**歯周組織の構造** 1、歯肉 2、歯根膜、セメント質、歯槽骨	歯肉の臨床的、解剖学的、組織学的構造と機能について 歯を支持する組織の構造と機能について
4 5	**歯周病の病態と病因** 1、歯周病の原因と病態 2、歯周病のリスク因子、修飾因子	プラークの構造、組成とそれによる歯周病発症のメカニズムについて 歯周病の発症や進行に影響を与える因子について
6 7	**歯周病の診査・診断** 1、歯周病の検査 2、歯周病の分類と診断	歯周病の病状把握に必要な検査とその意義について 様々な歯周病の特徴とその診断について
8 9 10 11 12 13 14	**歯周病の治療** 1、歯周治療の流れと治療のゴール 2、歯周基本治療1　プラークコントロール 3、歯周基本治療2　スケーリング・ルートプレーニング 4、歯周基本治療3　咬合調整・固定 5、再評価 6、歯周外科手術 7、メインテナンスとペリオドンタルサポーティブセラピー	歯周病治療の進めかたと目標、歯周病の治癒について 機械的、化学的プラークコントロールの目的と方法について 歯肉縁下の炎症性因子の除去とその方法について 外傷性咬合が歯周組織に与える影響とそれに対する処置について 再評価の意義と処置内容について 各種歯周外科処置の種類と器具について メインテナンスと SPT の意義と処置について
15	**まとめ**	

【評価方法】
終講試験と小テスト

【使用教科書】
最新歯科衛生士教本「歯周疾患」(医歯薬出版)

【使用参考書】
チームアプローチで成功させる実践的歯周治療　病因除去療法における歯科医師・歯科衛生士の役割
野口俊英/横田誠　編，　医学情報社，5,250 円（ISBN4-900807-83-4 C3047）
知っておきたい知識・術式［歯周治療］野口俊英編，
第一歯科出版，12,600 円（ISBN4-924858-32-3C304）

授業名	歯科補綴学	学年	2年次　前期
担当講師名	服部　正巳	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要

歯科補綴学とは、顎口腔系の諸器官に生じた実質欠損による障害を、人工材料によってその形態を回復し、生じた機能障害を克服して社会復帰を目指す歯科の領域をいう。

ここでは、歯科補綴に必要な知識や技術を学ぶとともに、補綴装置の形態や種類、機能回復の状態などの関連する知識を得ます。

■到達目標

歯科補綴治療についての適切な患者指導ができるようにする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯科補綴学の概念と社会へのかかわり	歯科補綴の必要性や患者の社会復帰などの問題を概念的に知って学習意欲を持つ。
2 3 4 5	補綴治療に必要な基礎知識(1) 補綴治療に必要な基礎知識(2) 補綴治療に必要な基礎知識(3) 補綴治療に必要な基礎知識(4)	感染への知識を復習してから、補綴治療と補綴装置についての概要を知る。また咬合の基礎知識としての、基準点、基準面、下顎位、下顎運動などを学び、臨床との関わりを知る。
6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	補綴装着の種類 補綴歯科治療における検査・診断 クラウン・ブリッジ治療の実際(1) クラウン・ブリッジ治療の実際(2) 有床義歯治療の実際(1) 有床義歯治療の実際(2) 有床義歯治療の実際(3) インプラント治療の実際(1) インプラント治療の実際(2) 短期および長期メインテナンス	無歯顎者の機能障害を回復する全部床義歯は人工歯と義歯床からなる最も単純な構造である。関連する問題を知り、患者指導に必要な事項を知る。また口腔インプラントや顎顔面補綴など特殊な補綴治療の存在を知る。 歯科補綴治療における医療面接，検査・診断などを知る。各種補綴装置の特徴と治療の実際について概要を知る。 補綴装置の短期，長期の管理指導に必要な事項を知る。

【評価方法】
主として終講試験による。

【使用教科書】
最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴」，医歯薬出版，

【使用参考書】
口腔解剖学、歯科理工学、歯周療法学など関連学科の教本が有用である。プリントを配布する予定である。

授業名	口腔外科・麻酔学	学年	2年次　前期
担当講師名	日比　五郎	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要

顔面頭蓋には重要な感覚受容器が集中する。口腔もそうした受容器の一つであるが、顔面の下半分を広く占め、解剖学的に際立って大きいことが特徴である。各種動物にとって口腔は単なる受身の受容器ではなく、エネルギー摂取や闘争、あるいは会話など、いわば他動的な機能を併せもち、多重の機能を担う器官であることを明確に認識する必要がある。複雑な構造や多彩な機能がどのように障害され、また修復されるか、最大数のスライドを駆使して提示する。

社会の高齢化に伴い、歯科治療は症例毎に多様な対応を強いられるようになった。それと同時に緊急事態に遭遇する機会も増えた。治療現場における本事態に対する知識と技術の必要性が高まっているが、もっとも重要なことは医療スタッフによる早期発見である。重点をここに置き、基本操作の重要性を含め理解させる。

■到達目標

口を含む顔面は生体の窓であることを再確認し、広い視野に立って柔軟な思考ができることを目指す。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1. 2	口腔外科総論	全身症状の診かた
		部分症としての口腔症状
		口腔から全身への波及
3～10	口腔疾患の理解	口腔領域の先天異常
		外傷
		口腔粘膜疾患
		嚢胞(のうほう)形成性疾患・良性腫瘍
		悪性腫瘍
		神経・血液疾患
11.12	口腔外科診療の実際	問診
		滅菌・消毒
		介補
13	全身状態の把握	内科診療法から
14	麻酔法	局所麻酔
		鎮静法
		全身麻酔
15	緊急蘇生法	ABC 法

【評価方法】

終講試験

【使用教科書】

最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患　口腔外科学・歯科麻酔」　全国歯科衛生士教育協議会編(医歯薬出版)

【使用参考書】

授業名	小児歯科学	学年	2年次　前期
担当講師名	鬼頭　秀明・鬼頭　佳子 林　志穂	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要

小児歯科学は成長発育期の口腔内に生じる特有の変化や病態、対処法を把握する学問である。即ち小児歯科臨床への従事に必要な事柄、および小児歯科学の基礎的な知識の習得が授業の主な目的となる。授業は総論と各論に分けて行う。

総論では小児の発育および歯科疾患などの基本的な知識を、各論では小児歯科の臨床について学ぶ。

■到達目標

小児歯科学の基本的知識を習得する。
小児歯科臨床における必要事項の基本を理解する。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1 2	（総論） 小児歯科学概論・心身の発育 心身の発育 顔面頭蓋の発育	小児歯科学とは何か 発育の概念とその評価 顎顔面頭蓋の発育およびその評価
3 4	歯の発育と異常 歯列・咬合の発育と異常	歯の正常な発育と各段階で表れる異常 歯列・咬合の正常な発育と発育異常
5 6	乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕 小児の歯科疾患	乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕の特徴 小児にみられる口腔軟組織疾患と歯周疾患 小児虐待
7 8	（各論） 小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法	小児の各時期における特徴と歯科的問題点 治療時の患児への対応法
9 10	小児歯科における診療体系	小児歯科診療の流れ
11 12	小児歯科における診療体系	小児歯科診療の流れ
13 14	障害児の歯科治療 診療補助、診査、修復、歯内療法 外科的処置、咬合誘導、定期検診 う蝕予防　小児の口腔健康管理 器材の管理	障害の概念と各障害の概要 小児の口腔管理の概要
15	まとめ	まとめ

【評価方法】
終講試験

【使用教科書】
最新歯科衛生士教本　小児歯科（医歯薬出版）

【使用参考書】
なし

授業名	高齢者歯科学	学年	2年次　前期
担当講師名	青柳　公夫	単位数(時間数)	1単位(16時間)

■授業概要

高齢社会を迎え、さまざまな分野での対応が急がれるなか、歯科衛生士もそれに応じていく必要があります。高齢者が、口腔の健康を維持増進し、QOLを高めていけるよう高齢者を理解し、歯科医療にかかわる技術的な知識を修得していきます。またさまざまな疾患を抱えている事の多い高齢者の心と身体にどのように接していくか等、人をみる視点から口腔ケアの相互実習、口腔機能訓練向上に関する評価法、訓練法等、実習により体験する。又、介護保険制度の中で歯科衛生士として、どのように関わり、対応していくかを理解していく。

■到達目標

高齢者の特徴を理解し、加齢・老化によって起こる身体機能の変化を知る。
バイタルサインを正しく確認できるようにする。
高齢者に多い疾患に関する知識を得るとともに、歯科診療や口腔ケアを実施するにあたり、注意すべきことを知る。
摂食嚥下のメカニズムについての知識を習得し、摂食嚥下リハビリテーションの技法に関する知識を習得する。
介護保険制度の概要を知るとともに、要介護高齢者が介護保険の申請からサービス利用ができるようになるまでの過程を理解する。歯科衛生士として、居宅療養管理指導や口腔機能向上サービスが提供できるよう知識を習得する。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	高齢者歯科概論	高齢者の定義 加齢・老化による身体機能の変化 バイタルサイン
2	高齢者に多い疾患	高齢者に多発する疾患 高齢者の疾患と口腔の関係
3・4	摂食・嚥下機能	摂食燕下のメカニズム 摂食・嚥下障害について 摂食・嚥下リハビリテーション
5・6	要介護保険制度	介護保険の概要 要介護高齢者と歯科衛生士 介護予防における歯科衛生士の役割
7	口腔ケア	高齢者の口腔ケアについて
8	高齢者に関わる医療と介護	在宅訪問診療、訪問歯科診療 地域包括ケアと多職種連携

【評価方法】
終講試験　　本試験及び追再試験

【使用教科書】
最新 「高齢者歯科」 第2版 （医歯薬出版）

【使用参考書】

授業名	障害者歯科学	学年	2年次　前期
担当講師名	堀部森崇　普天間優貴 井上唯衣　奥田希世子	単位(時間数)	1単位(16時間)

■授業概要

本授業では、障害者の現状を把握し、障害の種類と歯科的特徴を理解することを目的とする。
障害者の身体的、精神的、心理的特徴と社会環境を理解し、障害者歯科における歯科衛生士業務を行うために必要な基本的事項を修得する。さらに、障害者の口腔環境、口腔機能、歯科疾患の特異性とその口腔健康管理の方法について理解する。

■到達目標

障害者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
障害者歯科臨床で用いられる行動調整法について説明できる。
障害のある人の口腔保健ならびに専門的口腔ケアおよび指導ができる。
摂食嚥下障害および摂食機能療法について説明できる。
地域における障害者歯科医療体制および多職種連携について説明できる。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	障害の概念	スペシャルニーズおよび障害の概念について(p.1～12)
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	障害の種類と歯科的特徴について(p.13～25) 精神発達・心理的発達と行動障害
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	障害の種類と歯科的特徴について(p.25～38) 運動障害
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	障害の種類と歯科的特徴について(p.39～50) 感覚障害
5	障害者の歯科医療と行動調整	障害のある人とのコミュニケーション法について(p.51～58) 障害者歯科で用いられる行動調整法と歯科衛生士の役割について(p.59～77)
6	健康支援と口腔衛生管理 リスク評価と安全管理	障害のある人の口腔保健，専門的口腔ケアについて(p.78～99) 障害者歯科におけるリスク評価と安全管理について(p.100～108)
7	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	摂食嚥下障害と口腔管理・栄養管理について(p.109～117) 摂食機能療法について(p.117～128) 小児期の評価と対処法について(p.129～132) 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割について(p.132～133)
8	地域における障害者歯科 障害者歯科における歯科衛生過程	地域医療連携について(p.134～136) 障害者歯科と関連職種について(p.136～139) 保健・医療・福祉のネットワークについて(p.139～154) 障害者歯科における歯科衛生業務の実例について(p.155～172)

【評価方法】	終講試験　本試験および追再試験
【使用教科書】	最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」第2版(医歯薬出版)
【使用参考書】	スペシャルニーズデンティストリー　障害者歯科 (医歯薬出版)

授業名	歯科矯正学	学年	2年次　前期
担当講師名	藤原琢也　後藤洋 鳥井康義　吉廻守 酒井直子　　浅岡諒	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要

矯正歯科治療の目的は，不正咬合が及ぼす咀嚼・発音などの口腔機能や顎骨の形態・形成等への悪影響からなる諸問題を改善もしくは予防して，心身ともに健康な状態へと誘導し，またこれを維持することにある．

本授業では不正咬合に対する矯正歯科治療の必要性を理解し，矯正臨床において診療補助，予防処置及び指導に必要な知識ならびに技能を修得する．

■到達目標

1. 矯正歯科学の意義・目的を説明する．
2. 顎顔面領域の成長発育を理解する．
3. 正常咬合と不正咬合について説明する．
4. 矯正治療における審査，検査，症例分析と診断について説明する．
5. 矯正治療に使用する器具・器材を説明する．
6. 矯正装置の構造，適応，作用機序ならびに取り扱い方法を説明する．

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯科矯正治療の概要	歯科矯正治療の流れ
2	身体の成長発育について	身体の成長発育の概要ならびに形態的特徴について
3	頭蓋と口腔機能の成長発育	顎顔面頭蓋，歯と歯列ならびに口腔機能の成長発育
4	正常咬合について	正常咬合の概念ならびに咬合位について
5	不正咬合について	不正咬合の概念と歯，歯列弓，上下歯列弓の位置異常
6	不正咬合の分類・種類について	不正咬合の原因・種類ならびに Angle の分類について
7	矯正歯科診断	形態・画像・機能検査と症例分析法
8	矯正歯科治療と力	歯の移動と固定ならびに歯の移動様式と組織変化
9	矯正装置について　1	顎外固定装置・舌側弧線装置
10	矯正装置について２	機能的矯正装置，拡大装置，床矯正装置
11	矯正装置について３	マルチブラケット装置，保定装置，その他
12	矯正歯科治療の抜歯	抜歯基準，抜歯部位・時期
13	矯正歯科治療の実際	I 級、II 級，III 級不正咬合の治療の流れ
14	矯正歯科用器具・材料	矯正歯科用器具・材料の準備と取り扱い
15	矯正歯科診療における衛生士の役割	検査の補助，各種矯正装置装着時の補助と指導

【評価方法】	終講試験による客観的評価(100%)．授業態度を考慮することがある．
【使用教科書】	最新歯科衛生士教本:咀嚼障害・咬合異常2　歯科矯正
【使用参考書】	混合歯列期の矯正歯科治療，チェアサイド・ラボサイドの矯正装置ビジュアルガイド， チェアサイド・ラボサイドの矯正装置ビジュアルガイド2

授業名	歯科予防処置論Ⅲ	学年	2年次　前期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	2単位(60時間)

■授業概要

歯科予防処置論Ⅲでは１年次に習得した予防的歯石除去を応用して、歯周疾患のアプローチを学ぶ。歯肉炎や歯周炎の発症する歯周組織、その原因であるプラークや歯石、歯肉炎・歯周炎への経過などをしっかり理解し、相互実習では先のことを考えて行動し、安全かつ素早い技術を身につける。マネキンを生体に見立て生体に対しての配慮や声掛け、コミュニケーションも同時に身につける。

■到達目標

基礎学習の習得及びそれに付随する正確な技術習得を目標とする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1・2	歯周疾患へのアプローチ	歯周検査(PD、動揺度、AL、歯間離解度)と記入方法 マネキンでの測定
3・4	超音波スケーラーの取り扱い①	超音波スケーラーの構造とエアスケーラーとの比較 基礎知識と基本的操作練習(マネキン) バキューム操作
5・6	超音波スケーラーの取り扱い②	上顎のスケーリング(相互実習) 歯周検査(PD)　歯式記入
7・8	超音波スケーラーの取り扱い③	上顎のスケーリング(相互実習) 歯周検査(PD)　歯式記入
9・10	超音波スケーラーの取り扱い④	下顎のスケーリング(相互実習) 歯周検査(PD)　歯式記入
11・12	超音波スケーラーの取り扱い⑤	下顎のスケーリング(相互実習) 歯周検査(PD)　歯式記入
13・14	キュレットスケーラーの取り扱い①	基礎知識 スケーラーの構造、基本的操作
15・16	キュレットスケーラーの取り扱い②	部位別スケーリング操作(前歯部・臼歯部)
17・18	シャープニング	キュレットスケーラーのシャープニング
19・20	キュレットスケーラーの取り扱い③	部位別スケーリング操作(前歯部・臼歯部)
21・22	キュレットスケーラーの取り扱い④	部位別スケーリング操作(前歯部・臼歯部)
23・24	キュレットスケーラーの取り扱い⑤	部位別スケーリング操作(前歯部・臼歯部)
25・26	キュレットスケーラーの取り扱い⑥	スケーリング操作総復習(前歯部・臼歯部)

27・28	キュレットスケーラーの取り扱い⑦	スケーリング操作確認
29・30	キュレットスケーラーの取り扱い⑧	操作確認の振り返りと改善

【評価方法】 終講試験(小テスト、身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度　技能習得　含む)
【使用教科書】 最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論』(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本『保健生態学』(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本『歯周病学』(医歯薬出版)
【使用参考書】

授業名	歯科予防処置論Ⅳ	学年	2年次　後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1単位(30時間)

■授業概要

歯科予防処置Ⅳでは、臨床実習に向けて基礎実習から応用実習を実施していく。臨床現場では常に先の事を考えて行動し、安全かつ素早い技術や生体に対しての配慮や声掛け、コミュニケーションが大切であるため、より臨床現場を意識した実習を行う。そのためにも1年次、2年次前期に習得した知識技術がベースとなるため復習が必須となる。
また齲蝕予防処置法(う蝕活動性試験・小窩裂溝填塞法)についても学び、患者のう蝕リスクを考えそれに合わせた指導や処置をプランニングする方法を学ぶ。

■到達目標

基礎学習の習得及びそれに付随する正確な実技習得を目標とする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1・2	う蝕活動性試験	う蝕予防処置 う蝕発病因子の評価方法の種類と特徴
3・4	キュレットスケーラーまとめ	部位別スケーリング操作(前歯部・臼歯部)
5・6	キュレットスケーラー実技再確認	部位別スケーリング操作確認
7・8	超音波スケーラーとバキュームテクニック	超音波スケーラー操作練習 術者バキュームテクニック
9・10	1・2年生の合同実習① ガイダンス	1年生との合同実習ガイダンス 相互実習ローテーションの役割確認
11・12	1・2年生の合同実習② リハーサル	1年生との合同実習リハーサル
13	インシデント・アクシデント	医療事故、医療過誤 臨床実習現場で起こりうるヒヤリハット、インシデント対策
14・15	小窩裂溝填塞法	う蝕予防処置

【評価方法】
終講試験(小テスト、身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度　技能習得　含む)

【使用教科書】
最新歯科衛生士教本『歯科予防処置論・歯科保健指導論』(医歯薬出版)
最新歯科衛生士教本『保健生態学』(医歯薬出版)
最新歯科衛生士教本『歯周病学』(医歯薬出版)

【使用参考書】

授業名	歯科保健指導論Ⅲ	学年	２年次　前期
担当講師名	専任教員	単位（時間数）	２単位（６０時間）

■授業概要

歯科保健指導は、歯科衛生士にとって重要な仕事の一つであり、幅広く基礎知識及び専門的な知識が必要とされる。
健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を取得する。

■到達目標

口腔の保健管理を行うための情報収集と業務記録を作成するために必要な医療面接における情報の利用と管理、継続的指導に関する知識と技能を身につける。
園児や児童への口腔衛生活動を円滑に展開するために、発達段階、学習段階および日常生活行動を理解する。発達段階に応じたコミュニケーションをとることにより、対象者にとって必要な援助法を学び、口腔衛生指導を実践するための基礎的能力を身につける。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
１・２	ライフステージ⑥　学齢期	一般的特徴　口腔内の特徴 口腔清掃　栄養・口腔機能指導
３・４	集団指導法	集団の特徴、媒体と利用法 幼稚園実習に向けて、目的を理解し、指導用原稿と媒体を検討
５・６	小集団指導（幼稚園）実習話し方 小集団指導用模型のブラッシング練習	小集団グループ発表の準備 グループ原稿・媒体作成
７・８	小集団指導の考え方① （幼稚園実習の詳細と原稿・媒体検討）	集団の特徴、媒体と利用法 幼稚園実習に向けて、目的を理解し、指導用原稿と媒体を検討
９・１０	小集団指導の考え方② （原稿・媒体検討） 小集団指導実習媒体作成	各自の役割を決定し、原稿作成 媒体の内容確認作成
１１・１２	小集団指導の考え方③ （原稿・媒体検討） 小集団指導実習媒体作成	各自の役割を決定し、原稿作成 媒体の内容確認作成
１３・１４	地域歯科保健活動における健康教育 学校歯科健康教育 小学校歯科保健実習事前教育①	学校歯科保健活動の現場を理解 小学校実習の目的、流れを理解
１５・１６	地域歯科保健活動における健康教育 学校歯科健康教育 小学校歯科保健実習事前教育②	学校歯科保健活動の現場を理解 小学校実習の目的、流れを理解
１７・１８	小集団指導用模型の ブラッシング技能習得	教員確認

１９・２０	小集団指導実習媒体発表	小集団グループ発表 グループ原稿・媒体作成
２１・２２	医療面接 患者（対象者）把握法	傾聴・質問法 健康調査票
２３・２４	医療面接 患者（対象者）把握法	傾聴・質問法 健康調査票
２５・２６	業務記録 SOAPIE　①	業務記録 S;主観的情報 O;客観的情報 A;解釈、分析
２７・２８	業務記録 SOAPIE　②	業務記録 P;計画 I;実施した事柄 E;対象者の反応・改善・予測
２９・３０	業務記録 SOAPIE　③	業務記録 演習

【評価方法】
　終講試験
　(小テスト、身だしなみ、忘れ物、提出物、出欠状況、授業態度、技能習得　含む)

【使用教科書】
医歯薬出版･最新歯科衛生士教本歯科予防処置論･歯科保健指導論
医歯薬出版･最新歯科衛生士教本保健生態学
学研書院･オーラルヘルスケア事典　～お口の健康のために～

【使用参考書】

授業名	歯科保健指導論Ⅳ	学年	２年次　通年
担当講師名	専任教員	単位（時間数）	２単位（６０時間）

■授業概要

歯科保健指導は、歯科衛生士にとって重要な仕事の一つであり、幅広く基礎知識及び専門的な知識が必要とされる。
健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を取得する。

■到達目標

口腔リハビリテーション・在宅口腔ケアに必要な知識・技術を身に付ける。誤嚥性肺炎の予防と終末期を想定した患者の QOL の向上を考える力を付ける。安全な口腔ケアの技術や全身状態の管理、救急措置を行える能力を付ける。他職種連携・チーム医療について知る。
歯科衛生過程の理論を理解し、具体的な方法や行動を見つけ、実践できるように助言や援助の技法習得を目指す。そして歯科衛生士に必要な指導者としての判断能力、処理能力を身につける事を目標とする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
１・２	口腔リハビリテーション・在宅口腔ケア 嚥下の５段階・	嚥下の５段階の理解・図示
３・４	誤嚥とは・誤嚥性肺炎・呼吸器の理解 窒息時の対応	呼吸器と誤嚥 窒息時の対応　ハイムリッヒ
５・６	アセスメント	対象把握と機能評価　アセスメント　スクリーニングテスト
７・８	在宅口腔ケア　　確認テスト	嚥下の５段階　アセスメント
９・１０	地域歯科保健活動　障害者の対応 口腔保健センター見学実習事前教育	活動の現場を理解　障害者の対応 一宮障害者センター実習の目的、流れを理解
１１	多職種連携・チーム医療 ①　嚥下の解剖学	嚥下の解剖生理実習と嚥下障害の体験 歯科医師
１２	多職種連携・チーム医療 ②　姿勢	嚥下に関係する姿勢調整やリハビリの実際 作業療法士
１３	多職種連携・チーム医療 ③　食形態	訪問チームの臨床、とろみの付け方　嚥下食体験 管理栄養士
１４	多職種連携・チーム医療 ④　発声	訪問チームの臨床、発音発声 言語聴覚士
１５	多職種連携・チーム医療 ⑤　VE 演習	訪問チームの臨床、VE の実際 歯科医師
１６・１７	口腔清掃（パーツ）	口腔清掃の用具、清掃方法、姿勢
１８・１９	口腔清掃（吸引）	吸引器の名称、取り扱い 鼻腔からの吸引手順
２０・２１	口腔清掃（流れ）	口腔清掃の用具、清掃方法、姿勢
２２・２３	口腔リハビリテーション	口腔清掃の流れ　誤嚥予防体位
２４・２５	口腔機能低下症	口腔機能訓練　構音や呼吸訓練　舌の動きなどリハビリの実習

２６・２７	歯科衛生過程① 　歯科衛生アセスメント 　歯科衛生診断	対象者の問題把握のためのプロセス 情報収集・情報処理、 問題の明確化・診断文と強み
２８・２９	歯科衛生過程② 　歯科衛生計画立案 　歯科衛生介入	長期目標・短期目標 介入、評価
３０	歯科衛生過程③ 　歯科衛生評価	口腔機能低下症について 歯科衛生過程の作成演習

【評価方法】
終講試験(小テスト、身だしなみ、忘れ物、提出物、出欠状況、授業態度、学外実習態度含む)

【使用教科書】
医歯薬出版・最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論
医歯薬出版・最新歯科衛生士教本高齢者

【使用参考書】
医歯薬出版・歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版

授業名	食生活指導	学年	2年次 前後期
担当講師名	岡本 桂子	単位(時間数)	1単位(20時間)

■授業概要

歯科衛生士として必要な、歯についての知識を学ぶ上で、食生活というのは、とても重要である。
実生活の中で、自分の体と向かい合いながら、食品の栄養と表示を見る力、選ぶ力を学び、その流通と安心安全(食中毒などの衛生面)を知り、食文化と食事のマナーを身につける。
それらを、食生活指導として学ぶ。

■到達目標

任意であるが、食生活アドバイザー・3 級を修得する。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	栄養と健康	食事バランスガイド
	食生活及び食習慣の把握	食事と病気予防
2	栄養と健康	ライフステージごとの食生活
3	食文化	世界の料理と日本料理
	食文化	季節と料理 食品の旬
4	食文化	食事のマナー
5	食品についての知識	食品の分類 (食品加工と保存)
	食品についての知識	期限表示・品質表示
6	食品についての知識	様々な食品の品質表示
	食のマーケット	食の流通・暮らしと経済
7	食品衛生	食中毒(食中毒の種類)
	食品衛生	細菌性食中毒と予防
8	食品衛生	食の安全
9	食生活と社会	身近な消費者問題 安全な食生活を守る法律
10	まとめ	

【評価方法】
筆記試験

【使用教科書
食生活アドバイザー3級テキスト&問題集
食生活アドバイザー検定試験 科目別過去問題集

【使用参考書】
配布プリント

授業名	歯科診療補助論Ⅲ	学年	2年次　通年
担当講師名	専任教員 市岡　百合子	単位(時間数)	3単位(90時間) この内、以下の項目を含む 臨床検査(16 時間)※別紙参照 救急蘇生(14 時間)※別紙参照

■授業概要

2年生後期から臨床の現場で学ぶことを前提に、より専門性の高い治療内容の歯科診療補助実習を行う。臨床科目の履修と並行しながら歯科診療補助論Ⅲの実習を行うことで、専門的な知識を基にした根拠のある実技習得を行う。

■到達目標

1)歯内療法の概要を説明し、各歯内療法の準備と診療の補助を行うことが出来る。
2)歯内療法で使用する薬剤の分類とその適応を説明出来る。
3)口腔外科小手術を理解し、必要な器具の準備と診療補助が出来る。
4)局所麻酔時の業務を説明し、必要な器具の準備と診療補助が出来る。
5)止血法を理解し、必要な機材と薬剤の準備及び止血方法を説明出来る。
6)矯正歯科治療に用いる器具・材料の用途について説明出来る。
7)矯正歯科治療に必要な器具・材料の準備が出来る。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1 2	歯内療法1	歯内療法の概要
3 4	歯内療法2	麻酔抜髄・感染根管処置に使用する器具・薬品 手順とアシスタントワーク (抜髄)
5 6	歯内療法3	根管充填に使用する器具・薬品 手順とアシスタントワーク (抜髄・根管充填)
7 8	歯内療法4	麻酔抜髄・根管充填に使用する器具・薬品 手順とアシスタントワークの復習 (根管充填・復習)
9 10	歯内療法5	手順とアシスタントワークの復習 実技確認の対策
11 12	歯内療法6	実技確認　1
13 14	歯内療法7	実技確認　2

15 16	外科器具の知識と取り扱い1	口腔外科・歯科麻酔処置における業務 浸潤麻酔 普通抜歯の術式と抜歯鉗子の判別
17 18	外科器具の知識と取り扱い2	外科器具の名称・用途 抜歯後の注意 その他の器具（器具ノート作成に向けて）
19 20	外科器具の知識と取り扱い3	実技確認1 術式に則った器具の準備 抜歯鉗子の判別
21 22	矯正器具の知識と取り扱い1	矯正歯科診療時における業務
23 24	矯正器具の知識と取り扱い2	矯正器具の名称・用途
25 26	外科・矯正器具の知識と取り扱い	実技確認 歯内療法　実技確認3 外科　実技確認2
27 28	介護実習	衣服の着脱 （衣服の着脱介助の方法、片麻痺の方の衣服の着脱） 杖歩行の介助 （肢体不自由者の介助、視覚障害者の歩行介助）
29 30	介護実習	車いす介助 （移動介助の意義、車いすの基本動作、車いす介助）

【評価方法】
終講試験（小テスト、身だしなみ、忘れ物、提出物、出欠状況、授業態度　技能習得　含む）

【使用教科書】
最新：歯科衛生士教本　歯科診療補助論第2版
イラストと写真でわかる歯科材料の基礎（永末書店）、
最新：歯科衛生士教本　歯科機器(医歯薬出版)
最新：歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法（医歯薬出版）
最新：歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常2　歯科矯正（医歯薬出版）
最新：歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版）

【使用参考書】

授業名	診療補助Ⅲ（臨床検査）	学年	2年次　前期
担当講師名	山本　良実	単位（時間数）	歯科診療補助論Ⅲの単位内（16時間）

■授業概要

臨床検査の重要性や、その内容について理解するとともに、複数回の実習で検体の取り扱いと検査の手法等についても慣れることを目的とする。

■到達目標

実際の臨床の場で必要となる具体的な知識や事柄を習得し、実際の治療に自信を持って当れることを目標とする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	臨床検査とは	概論
2	口腔領域の臨床検査	唾液検査・公衆検査など歯科臨床でおこなわれる検査
3	生体検査	体温、脈拍、血圧などについて
4	生体検実習	生体検実習（血圧測定、血中酸素飽和度など）
5	検体検査（血液、尿、細菌検査など）	血液型、貧血、出血性素因などについて
6	検体検査実習	ABO型血液型の検査の実習など
7	摂食嚥下関連の検査	摂食嚥下障害のスクリーニング検査や 嚥下造影検査など
8	臨床でよくみる疾患の検査値の読み方	さまざまな疾患の患者が来院した時の判断

【評価方法】
終講試験と実習レポートなど

【使用教科書】
「最新：臨床検査」（医歯薬出版）

【使用参考書】

授業名	診療補助Ⅲ（救急蘇生）	学年	2年次　前期
担当講師名	横井基夫	単位（時間数）	歯科診療補助論Ⅲの単位内（14時間）

■授業概要

歯科における麻酔法について学ぶ
歯科処置が全身に及ぼす影響や偶発症について学ぶ
バイタルサインを理解し、測定法を習得する
救急蘇生を理解し、その対処法を習得する
急性期病院における口腔ケアの現状とその重要性について理解する

■到達目標

局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法について説明できる
歯科治療時の全身的偶発症の概要を説明できる
バイタルサインの説明と測定ができる
一次救命処置の説明と処置ができる
急性期病院における口腔ケアの必要性について説明できる

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯科の麻酔法	全身麻酔、局所麻酔や鎮静法を理解する
2	有病者の歯科治療 歯科診療における全身的偶発症	歯科処置が全身に及ぼす影響について 偶発症の原因、種類とその対応について
3	バイタルサイン	バイタルサインの意味と見方を理解する
4	バイタルサイン	バイタルサインの測定実習
5	救急蘇生	救急蘇生法の理解と実習
6	救急蘇生	救急蘇生法の実習
7	口腔ケア	急性期病院における口腔ケアの現状とその重要性について

【評価方法】
試験、レポート提出

【使用教科書】
最新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」「臨床検査」「歯科診療補助論」（医歯薬出版）
歯科衛生士試験対策5（医歯薬出版）

【使用参考書】

授業名	放射線学	学年	2年次　前期
担当講師名	栗田　千亜紀	単位(時間数)	1単位(16時間)

■授業概要

歯科医療においてＸ線検査は必要不可欠な検査法であり、Ｘ線撮影に対する診療補助は、歯科衛生士の重要な業務の一つであるといえる。しかしながら、この検査法は、患者に多大な利益をもたらす反面、被曝という損失が同時に生じる。診療補助を行う歯科衛生士も、被曝という危険に常にさらされているといっても過言ではない。したがって、Ｘ 線検査に対する診療補助を安全かつ的確に行うためには様々な知識と技術が要求される。この授業は、放射線の基礎的知識から、撮影補助業務、患者ならびに医療従事者の放射線防護の実際について、臨床に則した幅広い知識を習得することを目的に行う。

■到達目標

１）放射線の性質に関して、基本的な事項を説明できる。
２）X線撮影装置、器材の基本的な構造を説明できる。
３）口内法、口外法撮影について説明できる。
４）患者に配慮した撮影補助が行える。
５）放射線の影響と放射線防護に関して説明できる。
６）適切な現像処理が行える。
７）デンタル写真、パノラマ写真の基本的な解剖構造を説明できる。
８）放射線治療、CT,MRI,超音波検査、核医学検査、造影検査の基本的な原理を説明できる。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	放射線の基礎的知識	原子の構造、Ｘ 線の発生、放射線とＸ 線の性質
2	Ｘ線撮影装置	歯科用 Ｘ 線装置、パノラマ断層撮影装置、その他(セファロ、歯科用デジタル装置、CT、MRI)
3	撮影用器材	歯科用Ｘ線フィルム、カセッテ、増感紙、グリッド、フィルムマーカー
4	口内法撮影補助	二等分法、正放線投影、平行法 咬翼法、咬合法、部位別撮影法
5	口外法撮影補助	機材の準備と補助
6	フィルムの現像と管理	現像処理、フィルムの取り扱い方と整理
7	放射線防護、放射線治療	放射線の影響と防護(患者の防護、医療従事者の防護)、放射線治療、CT,MRI,超音波検査、核医学検査、造影検査
8	撮影補助実習	口内法撮影補助 パノラマ撮影補助

【評価方法】
授業態度、終講試験

【使用教科書】
歯科衛生士テキスト「わかりやすい歯科放射線学」(学建書院出版)

【使用参考書】
歯科放射線学（購入の必要なし。必要なとき、資料を配布する）

授業名	臨床・臨地実習Ⅰ	学年	２年次　後期
担当講師名	実習施設指導員	単位（時間数）	８単位（３６０時間）

■授業概要

指定規則に定める教授要綱に基づき学校内で学んだ知識・技術を歯科臨床や地域保健等の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うことを目的とする
■到達目標
講義と学内実習で学んだものを基に、理論と実践を結び付け理解できる能力を養うことを目的とする

臨床実習Ⅰ期

実習分野	実習内容
診療介助業務	◎　医療人としての姿勢を学ぶ ◎　感染予防対策の目的を理解し、方法を習得する ◎　患者誘導、対応、コミュニケーションのとり方を学ぶ ◎　患者の主訴を把握し、治療の流れを理解する ◎　指示された事を的確に行う
歯科診療補助（１）	下記参照

臨床実習Ⅱ期

実習分野	実習内容
診療介助業務	◎　各処置の適応性、目的、術式、患者説明を理解する ◎　各分野の診療補助を理解し的確に行う
歯科診療補助（２）	下記参照

＊　歯科診療補助（１）　・エックス線写真撮影補助、現像補助
・バキューム操作　・セメント練和　・印象材練和
・麻酔の補助　・模型作製の補助　・ラバーダム防湿
・検査、診査測定の補助

＊　歯科診療補助（２）　・う蝕治療（保存）の補助　・歯科矯正の補助
・歯周治療の補助　・小児歯科の補助
・歯科補綴の補助　・口腔外科の補助

＊　診療介助業務　・受付　・器材管理
・患者誘導・患者対応　・薬剤管理
・消毒・滅菌　・医療廃棄物の管理
・環境整備

臨地実習

幼稚園：集団においての歯磨き指導
口腔保健センター：障がい者歯科診療の見学及び診療介助、補助

【評価方法】
臨床実習評価　90%　　臨地実習評価　10%

授業名	歯科総合演習	学年	2年次　後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1単位(30時間)

■授業概要

臨床実習に向け、知識と技術の習得状況の確認を行うとともに、現場で生かせる更なる実践での知識、技能を習得する。
また、臨床の現場で求められる身だしなみ、態度、習得すべき事柄と臨床実習に臨む姿勢を学ぶ。

■到達目標

今までに学んだ知識と技術を確認し、自信を持って臨床の現場に出ていけるよう総合的な力を身に付ける。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1 2	アルジネート印象採得	上顎・下顎の印象採得
3	合着材・仮封材の練和	合着材・仮封材の練和方法の確認
4	地域歯科保健活動における健康教育の媒体活用①	リーフレット作成　説明 (ライフステージ別)
5	基礎疾患を持つ患者の歯科診療補助	基礎疾患を持つ患者の歯科診療補助　事前学習
6	基礎疾患を持つ患者の歯科診療補助	基礎疾患を持つ患者の歯科診療補助　事前学習
7	チェアサイドの歯科保健指導1	対面場面でのソーシャルスキル　　グループワーク
8 9	1・2年生の合同実習 相互実習	１年生との合同実習
10 11	口腔内写真撮影	口腔内の情報収集
12 13	パノラマ・口内法撮影実習	パノラマ撮影補助 口内法撮影補助
14	地域歯科保健活動における健康教育の媒体活用②	リーフレット作成
15	ホワイトニング　ティオンオフィス	ティオンオフィス(GC)を用いたホワイトニングの手法を学ぶ

【評価方法】
出席状況　　課題レポート

【使用教科書】
最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版
最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」医歯薬出版

【使用参考書】
内科医から伝えたい歯科医院に知ってもらいたい糖尿病のこと　医歯薬出版

授業名	ライフデザインⅡ	学年	2年次　前後期
担当講師名	製菓教員 牧野　雅子	単位(時間数)	1 単位(30時間)

■授業概要

さまざまな物・事に興味を持ち、自分自身の考え方や生き方豊かにすることによって、他者に対しも心豊かに優しく接することができます。医療に従事する以上、他の職業に就くよりも、より豊かな心をもつべきです。授業では、「癒し」をテーマに様々なことに取り組んでいきます。

■到達目標

心のメンテナンス方法を知り、日常に取り入れやすくする。
製菓、手芸などの手作業を通じ、多くの体験をすることで豊かな心を持つ。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	製菓実習	詳細は、後日別途お伝えします。
2	製菓実習	
3	製菓実習	
4	製菓実習	
5	手芸	基本の縫い方
6	手芸	臨地実習(幼稚園・小学校等)で使用するエプロンの デザインと作成
7	手芸	
8	手芸	
9	手芸	
10	手芸	
11	手芸	
12	食育実習	詳細は、後日別途お伝えします。
13	食育実習	
14	食育実習	
15	食育実習	

【評価方法】
出席率・授業態度など

【使用教科書】
オリジナルプリントの配布

【使用参考書】なし